子ども読書支援センターニュース　　Ｎｏ.242

２０２４．０７．３１
山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2113　　http://library.pref.yamaguchi.lg.jp

【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】
　メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】
★「幼児のためのおはなし会」
　○日時：８月６日（火）11：00～11：20　○会場：山口県立山口図書館　第２研修室
　○対象：幼児　○定員：10組程度
◎申込み・連絡先:山口県子ども読書支援センター（電話:083-924-2113　Eメール:a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）
★令和６年度「学校図書館セミナー【第１回】」
○日時：８月21日（水）14：00～16：00
○会場：山口県立山口図書館　レクチャールーム（オンライン併用）
○対象：子どもの読書活動関係者
○定員：来館90名（オンラインは定員なし）　◎詳細・申込みはこちら→

【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本－乳幼児から>
『どこにいるの?』　イヌイマサノリ/作・絵　ひさかたチャイルド　2024.5　¥1200
　のしのしあるくぞうさん、ピンクのおかのうえにいるのかな？いいえ、おおきなぶたさんのせなかにいるの。おおきなぶたさん、すなばであそんでいるのかな？いいえ、もっとおおきならくださんのせなかにいるの。もっとおおきならくださんがいるのは、もっともっとおおきな…？らくだのこぶなど動物の体の一部をクローズアップして地形に見立てた、想像力にはたらきかける絵本。

<絵本－3，4歳から>
『いそがなくてもいいんじゃない?』　イーティン・リー/作　橋本あゆみ/訳　化学同人　2024.5　¥2400
　のんびりやのカメとせっかちなウサギはなかよし。いっしょにとおくのやまにのぼることにしたふたりだけど、はやおきしたウサギがむかえにいっても、カメはまだまだじゅんびちゅう。やっとでかけられたとおもったら、こんどはかわがあってすすめない。するとカメが「ちょっとまってて」といって…。性格が正反対だからこそ補い合っていける、新しい形の「ウサギとカメ」絵本。

<絵本－小学校低学年から>
『みずうみ色のウィピル』　すけのあずさ/作　BL出版　2024.5　¥1600
　ウィピルとは、マヤの民にむかしからつたわる色あざやかなふく。みずうみのほとりにくらすラサは、はたおりがとくいだが、いくらみごとなウィピルをいちばに売りにいっても、しゃべるのがにがてなせいでなかなか買ってもらえない。そんなある日、みずうみでふしぎなさかなに声をかけられ…。グアテマラの湖畔の村で多く着られている青いウィピルから着想した、民話風の絵本。

<絵本－小学校中学年から>
『もし、世界にわたしがいなかったら』　ビクター・サントス/文　アンナ・フォルラティ/絵　金原瑞人/訳　西村書店　2024.5　¥1800
　何百年も前から生きてきた「わたし」。いろんな姿で世界じゅうにいる「わたし」。愛をつたえることも傷つけることもできる「わたし」。そんな「わたし」の名前は…。文化と不可分の関係にある言語という存在を、人を人たらしめるものとして描き、少数言語消滅の危機に警鐘を鳴らす。ユネスコが宣言した「先住民言語の国際の10年」（2022－2032年）の公式選定絵本。

<絵本－中学生から>
『戦争は、』　ジョゼ・ジョルジェ・レトリア/文　アンドレ・レトリア/絵　木下眞穂/訳　岩波書店　2024.4　¥2000
　病気のように忍び寄り、日常生活を蝕んでいく「戦争」の根源的な恐ろしさを、淡々とした口調の詩と抽象画で描いた絵本。ポルトガルを代表する詩人であり、レジスタンス音楽家でもあるジョゼはユネスコ国際賞やカストロ児童文学賞などの受賞者で、本作は画家である息子アンドレとの合作。ホーンブック絵本賞、ブラティスラヴァ世界絵本原画展イラストレーション賞受賞作。

＜読み物ー小学校低学年から＞
『るりのワンピース』　花里真希/作　北見葉胡/絵　講談社　2024.4　¥1400
　るりの誕生日にうさぎの手作り人形と同じワンピースを作ると約束した祖母は、病気になり約束も作り方も忘れてしまう。仕方なく母とデパートで、自分の名前と同じ瑠璃色のワンピースを探するりは、きつねの紳士や、おしゃれな猫、大好きな祖母と同じ名前の女の子に出会う。不思議なエレベーターでデパートの中を行き来するが…。優しい気持ちが世代を繋いでいく絆の物語。

＜読み物ー小学校中学年から＞
『バラクラバ・ボーイ』　ジェニー・ロブソン/作　もりうちすみこ/訳　黒須高嶺/絵　文研出版　2024.5　¥1400
　４年生の少年ドゥーガルのクラスに転校してきたトミーは、頭から首まで覆われ目の周りだけ穴が開いているバラクラバ帽をかぶっていた。トミーが帽子をかぶっている理由を知りたくて、ドゥーガルやクラスメイトが様々な策を練っていく。トミーをきっかけに育まれる、個性を尊重する心情や少年たちの友情が描かれた物語。作者はボツワナ在住の作家で、本作品が初邦訳。

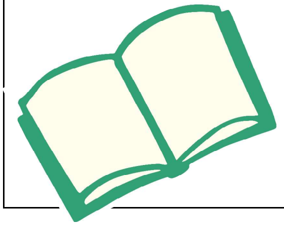
＜読み物ー小学校高学年から＞
『ぼくの色、見つけた！』　志津栄子/作　末山りん/絵　講談社　2024.5　¥1500
　３年前に受診した眼科で「色覚障がい」と伝えられた５年生の信太朗。人に知られないように生活しているが、からかわれたり、不自由なことがあったりして劣等感を抱く。しかし他の人には区別できない色の違いを自分だけが見分けることができることに気付き…。自分の見え方を受け止め向き合いながら、自分なりのペースや方法で乗り越えていこうとする少年の成長物語。

＜読み物ー中学生から＞
『ヘルンとセツ』　田渕久美子/著　NHK出版　2022.8　¥1700
　明治23年、島根県尋常中学校に新しい英語教師として着任したハーン（後の小泉八雲）が出雲大社へ訪問する際に、教頭が準備したのは宮司の遠縁となる小泉セツからの紹介状。セツは松江の武家に生まれ、明治維新により困窮した家族を支えるために仕立屋として働いていた。文豪小泉八雲と妻セツの生い立ちから出会いを描いた物語。『YA朝の読書ブックガイド2024』掲載。

＜ノンフィクションー小学校低学年から＞
『じぶんであるっていいかんじ　きみとジェンダーについての本』　テレサ・ソーン/作　ノア・グリニ/絵　たかいゆとり/訳　エトセトラブックス　2024.4　¥2000
　ルーシーはトランスジェンダーの女の子。ザビエルはシスジェンダーの男の子。アレックスは男の子でもあるし女の子でもあり、ＪＪは男の子でもないし女の子でもないノンバイナリー。「どんなジェンダーのアイデンティティでもきみはきみとしていきていけばいい」純粋な温かい言葉と多様な性について表現された絵で綴られる絵本。巻末に「知っておくとよいことば」の解説あり。

＜ノンフィクションー小学校中学年から＞
『世界ではじめての女性大統領のはなし』　ラウン・フリーゲンリング/作　朱位昌併/訳　平凡社　2024.5　¥1900
　世界で男女間の平等が一番進んでいる国として紹介されるアイスランド。1975年「女性の休日」のストライキを背景に多くの人々がある女性に大統領への立候補を望み、1980年世界初の女性の大統領が誕生した。男女平等を訴え、世界中にアイスランドの良さを発信するなどして16年間の大統領の公務を全うしたヴィグディス・フィンボガドッティルの人生を描く伝記絵本。

＜ノンフィクションー小学校高学年から＞
『万城目学さんと読むビジュアル竹取物語』　万城目学（まきめまなぶ）/訳　山田和人/総監修　ポプラ社　2024.4　¥4000
　平安時代初期に書かれ、現存する日本最古の物語といわれる竹取物語。厳選した12シーンについて原文・直訳・作家による現代語訳を掲載。古語の解説や当時の人々の様子、時代背景等についてイラストや漫画で分かりやすく紹介。絵巻物や屏風絵など歴史的な画像資料も充実。見返しにくずし字一覧表あり。シリーズ「作家さんと日本の古典を読んでみた！」全３巻の第１巻。



＜大活字本＞
『ぼくらの七日間戦争』（３分冊）　宗田理/作　読書工房　2024.3　¥3000
　バリアフリー図書を発行してきた読書工房が児童書の大活字本のシリーズ「読書工房めじろーブックス」を創刊。第１弾として、1985年４月に角川文庫から刊行されて以来、映画化やアニメ化もされ、数多くの読者から支持され続けている『ぼくらの七日間戦争』を刊行。大きな文字サイズ（22ポイント）と読みやすいフォントで再編集し、漢字は全てよみがな付き。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索（OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。
山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary